

新発田地区納税貯蓄組合連合会長賞

介護と税について

胎内市立 黒川中学校 二年 佐藤 礼唯 さん

私の祖父は十二年前、脳出血を起こししばらく病院で入院していました。その後遺症として、高次脳機能障害になり、右半身麻痺や失語症、急に怒り出して怒りを抑えきれなくなったりとたくさん症状が現れ、祖父もとてもショックを受けていました。当時、私たちは京都で暮らしていましたが、祖父の病気をきっかけに新潟で暮らすことにしました。

祖父は一生懸命病院でリハビリを行い、一人で立って杖をついて歩いたり、左手で食事や得意な絵を描いたり、家族の私たちでも驚くほど色々できるようになりました。祖父はお風呂が大好きでしたが、半身不随になり湯船に浸かる事がどうしてもできませんでした。そこで介護保険制度を利用して、デイサービスで週に二回お風呂に入れるのでとても喜んでいました。このサービスを利用する事で、祖母も介護の負担が減り、自由な時間を持つことができます。

この祖父が利用している介護保険サービスに税金が使われていることを知ったのは、今回の作文がきっかけでした。介護保険サービスは、国や市町村の負担と四十歳以上の国民が支払う介護保険料によって支えられています。少子高齢化が進み、介護サービスを利用する高齢者が増えており、それに伴って介護保険料を支払う現役の世代が負担する介護保険も年々増えている事がわかりました。また二〇二五年以降は、介護保険料を負担する四十歳以上の人口が減っていくことから、どのようにして財源を確保するかが課題となっていることもわかりました。よく税金の無駄使いという言葉を目にしますが、介護保険料だけではなく本当に必要なところに税金を使ってほしいし、私たち一人一人が税に関心をもっと向けていく事が大切なのではないかと思います。

祖父のように介護サービスを利用する事で少しでも笑顔でいられるような、みんなが幸せになれる社会にこれからもなってほしいと思います。